

## 第 11 回 球磨川下流域環境デザイン検討委員会 議事要旨

日時：令和 元 年 11 月 11 日（月） 15:00～17:00

場所：八代河川国道事務所 1 階会議室

### ■議事次第

1. 開 会
2. 事務局からの説明
  - (1) 規約の変更について
  - (2) 第 10 回委員会の議事要旨について
3. 議 事
  - (1) 検討委員会における検討経緯と最近の取組
  - (2) 萩原堤防のデザインについて
4. 現地視察  
先行整備区間の現地視察
5. まとめ
6. 今後のスケジュールについて
7. 閉 会

### ■議事要旨

#### ①規約の変更について

事) 2 年ぶりの開催ということで、組織名の改正と部署名、委員名を変更した旨の説明を行った。

委) 特に質問はない。

事) 規約では「委員会は、委員総数の 2/3 以上の出席をもって成立する」ということで、本日の委員会は成立することが確認された。

#### ②第 10 回議事要旨について

事) 第 10 回議事要旨となっているが、本委員会の議事次第を用いて本日の委員会のスケジュール、事務局の意向・考えについて説明を行った。

委) 特に質問なし。

#### ③検討委員会における検討経緯と最近の取組

事) 球磨川下流域環境デザイン検討委員会の検討経緯、検討目的、及び球磨川の主な特徴について説明を行った。

事) 球磨川下流域環境デザイン検討委員会の水生生物ワーキングから、八の字堰とヨシ原再生事業について工事状況、利用状況等の説明を行った。

#### ④萩原堤防のデザインについて、⑤施工整備区間の現地視察、⑥まとめ

##### A) 先行整備区間の評価について

<低水護岸について>

事) 今までの委員会では低水護岸は 1:1.0 程度の石積みで、石材は石灰岩や砂岩を用いた谷積みという議論があったが、石材の調達困難や球磨川中流域の施工実績から「宇土三角石（安山岩）」

を使用し、「乱積」で施工している。

事) 低水護岸の仕上げは、天端コンクリートを露出させず、法肩部はラウンドに仕上げ、護岸の安全性は練り構造としている。胴込めコンクリートが目立たないような配慮をし、調達した石材で安全面を確実に保つことに配慮した施工をしていると評価している。

委) 特に異論なし。

委) ただ、低水護岸周りに近づいた際、転落するのではないかと少し危険を感じる。

<捨石部・ワンドについて>

事) 低水護岸には水際部をもっと利用してもらいたいということで試験的にワンドを作っている。

委) ワンドに苔が生えたら、利用者が転倒して大事になるかもしれない。

委) ワンドに降りて転倒して、深みにはまって溺れることが想像される。

委) 川なので藻が生えて滑るような状況となるので、あえて案内することもないように思う。

委) 水際は捨石で、自然豊かな感じで良いと思う。ただ、先行整備区間は石工さんがきれいに作り過ぎている感じがするので、もっとラフな印象をあたるもので良い。

事) 護岸基礎部の捨石形状の工夫や人工的なイメージとなり過ぎないように、自然石の素材を醸し出せるような施工（凸凹したな仕上げ）とすることも考える。

<低水護岸部の階段について>

委) ワンドへ誘導しているのか、していないのか、作りが中途半端な感じがする。

委) 階段があることで捨石部に降りて、ワンド以外に歩いて行って事故につながる感じがする。

委) 傾斜を緩くしたり、曲がり階段や段数を増やすなど、もう少し安全に配慮した構造にするのが良い。

委) あえて誘導するような階段は上流側には作らない方が良い。

委) ただ、現状は中途半端な構造なので、船着場等の利用目的が明確な箇所は階段をつけて管理をすれば良いと思う。

<階段について>

委) ものすごく大きくて威圧感がある。

委) 洪水時に阻害とならないように半円状の階段はどうかと以前に意見しているが、上流側に設置されるときに検討されてはどうか。

委) 周りに土手を作るなどしてボリューム感を減らす工夫を新萩原橋から下流側でチャレンジされたら良いと思う。

事) 安全性は保たれているものの、張り出し部分が少し目立つので、小段を設けて階段の方向を堤防沿いにするなど階段が強調されないように修正事項案として、今後提示していく。

<看板について>

事) 道路から降りる階段と低水護岸からワンドに降りるところには、ピクトグラムによる注意喚起の看板を暫定的に設置して危険周知を行っている。

委) もう少し文字を大きく、わかりやすいように書いていただければと感じた。

委) クルーズ船の乗客（外国人）が川沿いを散策することを考えて、多言語とは言わないが、せめ

て英語表記ぐらいはあっても良い。

## B) 全体の整備について

### <新萩原橋より上流の整備等について>

- 委) 水際に人が入らないというのは妥当であるが、それが上流 2km まで連続するのも退屈なので、はねや船着場等のポイントで変化をつけた整備とするのが景観的にも大事である。
- 委) 新萩原橋より下流側でいろいろなチャレンジをして、全体でもう一度皆さんと議論して上流部の整備につなげていくのが良い。
- 委) 上流側まで整備が進むと、良いスポットになり、花火大会の観覧や観光客に喜んでもらえるような場所になると期待している。
- 委) 左右岸で別々の整備となっているように感じるので、両岸で整備するような繋がりが欲しい。例えば、遥拝堰や高速道路、鉄道の橋梁なりを使ってジップラインのような移動できる手段がある。現実的ではなくても構想として残しておいて欲しい。

### <遊歩道について>

- 事) 先行整備で 100m 程度を整備したものですから、曲率も非常に小さくなっていますが、2km につながっていく遊歩道として機能すると考えている。その際には、この遊歩道 2km だけを歩くというのはウォーキングとしてあまり現実的はないと思うので、周辺の遊歩道と接続させなければならぬと考えており、今後事業調整をしていく必要があると考えている。
- 委) 上流側まで整備されると景観としても、ジョギング、ウォーキングとしても大変良くなると思う。ただ、途中でトイレに行きたくなって天端道路に上がる必要が生じた際、遊歩道をかなり歩くことになるのが気になる。

### <はね・萩原敷石について>

- 事) 過去にあった、現在も少し名残のあるはねについて、地域の皆様にもいろいろと意見をいただきたいと考えている。
- 事) 萩原敷石を撤去するという計画はないので、残置するのであれば、現状のコンクリート被覆を昔の萩原敷石の趣を残すようにしたいとの考えがあるのではないかと感じているので、皆様の意見をいただきたい。
- 委) 萩原敷石は八代にとって観光の目玉になり得るものなので、活用していきたい。
- 委) 文化財、歴史的遺構であるので、慎重に、基本的には残して、広場や昔活用されていた方法がどうやったらできるのかといったところまでを含めた議論を進めていきたい。

### <その他>

- 委) ここでバーベキューのような火を焚いたりしても良いか。
- 事) 河川区域での火の使用については、延焼防止のため基礎がコンクリート等耐火性を有していることが条件となる。萩原堤防はコンクリート等の耐火性を有している構造ではないのでバーベキューは実施できない。
- 委) これくらいのスペースがあると、バーベキューセットを持ってくる方もいるかもしれないので、バーベキュー禁止の看板が必要だと感じる。

⑦今後のスケジュールについて

事) 具体的な整備を見据えながら八代市を含めたいろんなネットワークや石はね、萩原敷石の保全  
というものを含めた議論をすることが大事であるとの意見もあることから、事務局としても継  
続して定期的に委員会を開催していく予定である。

—以上—